はじめに

昨年４月、約２５年ぶりに当研究所に赴任しました。以前と比べ、敷地内の樹木は眺望を遮るまでに生長しています。建屋には老朽化が目立つものの、あの熊本地震にも耐え、風貌や雰囲気は大きく変わっていないことに懐かしさを感じると同時に安堵もしているところです。

さて、当研究所では、保健・衛生分野と環境分野での県内の中核的な試験研究機関として、感染症、食品、環境関係の試験検査や調査研究等の業務を行っています。一昨年、感染症法上の位置づけが５類に変更された新型コロナウイルスのＰＣＲ検査も、これまで延べ約７万人の検査を行って参りました。

全力で取り組んで参りましたが、一方で、他の様々な業務を犠牲にしなければならない面があったのも事実でした。現在、日々の業務に追われながら、研究発表会など一旦中止または後回しとしていたものを一つ一つ復活してきている状況です。まだまだ道半ばの段階です。

また、以前から指摘がありましたが、団塊の世代の大量退職後の技術やノウハウ継承の問題、人員削減や人事異動短期化等の流れのなかで、検査体制の維持や専門性の向上等、多くの課題を抱える状況にもあります。

そのような課題へ対応するため、今後、将来に向けた人材育成に力を入れていくことは必須であろうと認識しています。「人」は全ての礎です。特に、研究技術者の育成には長い年月を要します。継続的かつ中長期的な観点で取り組んでいくことが重要と考えているところです。

結びとなりますが、昨年夏、本県内の滝で水遊びをした方々が次々と体調不良を訴える事案が発生しました。また、昨年末には台湾の半導体メーカーが本県菊陽町での量産を開始したと発表されました。更に、有機フッ素化合物（ＰＦＡＳ）が人の健康に影響を及ぼす可能性等に高い関心が集まっています。このような突発的事案や変わりゆく社会情勢に対応するため、また、科学的根拠に基づく施策の展開や県民の皆様への適切な情報発信等のため、今後とも試験検査や調査研究に取り組んで参ります。

この所報は、主に令和５年度（2023 年度）に職員が日々取り組んだ試験検査や調査研究の成果等をとりまとめたものです。関係者の皆様には、ご高配いただき忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

引き続き心からのご理解、ご協力をよろしくお願いします。

令和７年（2025 年）３月

熊本県保健環境科学研究所
所長　榮田 智志